

こやとはたほこいせき
14. 小矢戸旗鉾遺跡

所在地：大野市小矢戸・太田
調査原因：中部縦貫自動車道建設事業
調査期間：平成 22 年 4 月 1 日～12 月 28 日
調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
調査面積：3,400 m²
時代：縄文・弥生時代、古代、中世



位置図 (S = 1/50,000)

調査の概要 遺跡は、赤根川左岸の微高地上に立地します。調査は平成 19 年 10 月から開始し、平成 22 年 12 月で終了しました。今年度の調査区は、北半の I 区と南端の II 区があります。旧地形は微高地と旧河道群からなり、緩やかに南東へ傾斜します。土層堆積は、微高地では水田土直下に遺構面があり、旧河道群では水田土下に埋土が厚く堆積していました。

中世 掘立柱建物 (SB) 2 棟、溝 (SD) 5 条、井戸 (SE) 2 基、ピット約 180 基、旧河道 (SR) 1 条があり、II 区中央東にまとまります。SB32 は、桁行 3 間×梁間 2 間の総柱建物で、東西方向に棟をもち、南北 2 面に廂が付きます。SD52 は細長く南北にのび、屋敷地の区画と考えられます。SE06 は大型の素掘りで、平面が円形を呈し径 3.5m 程、深さ 3.0m 程です。遺物は天箱 6 箱分出土し、時期は 13 世紀後半中心です。

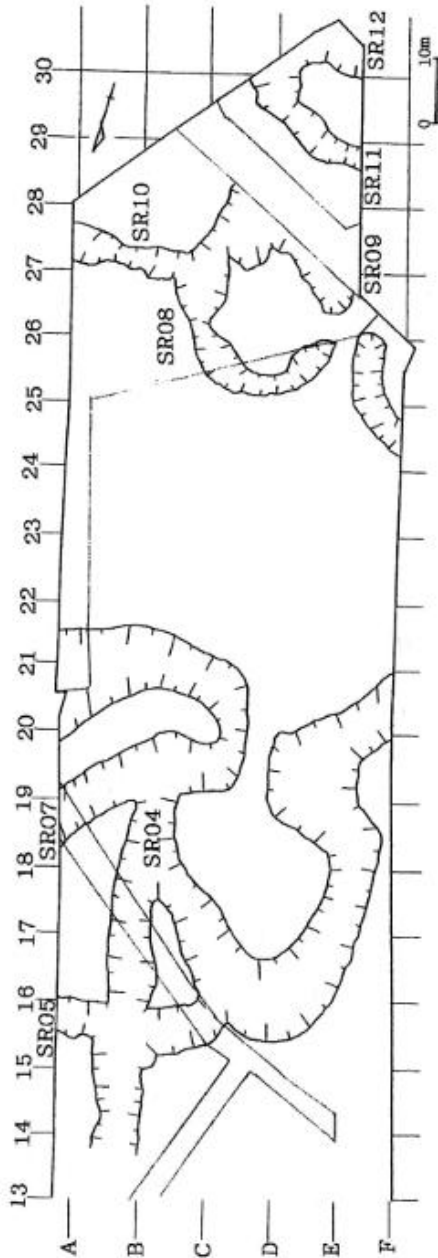
古代 柵列 (SA) 1 条、掘立柱建物 11 棟、溝 10 条、土坑 (SK) 6 基、ピット約 300 基、旧河道 3 条があり、I 区中央と II 区南東にまとまります。掘立柱建物は、SR01 南北と SR08 南側の 3 ヶ所で、建替え等の重複はありますが整然と列状に並びます。大半が南北方向に棟をもち、桁行 4 間や 3 間×梁間 2 間の側柱建物です。SB09 の柱穴から、墨書土器「南」・「酒富」の 2 点が重なって出土しました。また、SB10 では石製巡方が出土しました。SD53・66 は、須恵器と土師器が多く廃棄され、SD66 では墨書土器「炊」や赤彩土師器も出土しました。遺物は天箱 18 箱分出土し、時期は 8 世紀後半から 9 世紀前半です。

弥生時代 土坑 10 基、旧河道 9 条があります。旧河道は、調査区南半で大きく蛇行して南方へ伸びます。特に SR04・08 で後期の土器が多く出土しました。遺物は天箱 16 箱分です。

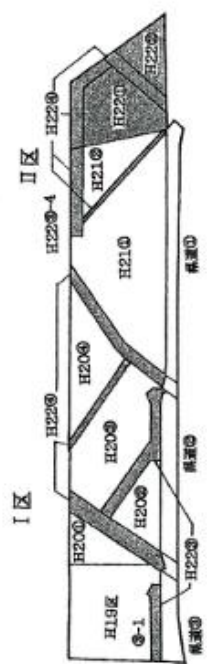
縄文時代 草創期の有茎尖頭器が SE06、早期の玦状耳飾が I 区北端で出土しました。

まとめ 中世では、溝に区画された複数の屋敷地に掘立柱建物や大形の井戸があり、有力者が居住した集落であったと考えられます。古代では、調査区南端にも集落があり太田遺跡へひろがります。集落が整然と計画的に営まれたことや、多量の墨書土器と石製巡方等から里長など役人の存在が示唆され、古代における大野郡資母郷の中心であったと考えられます。

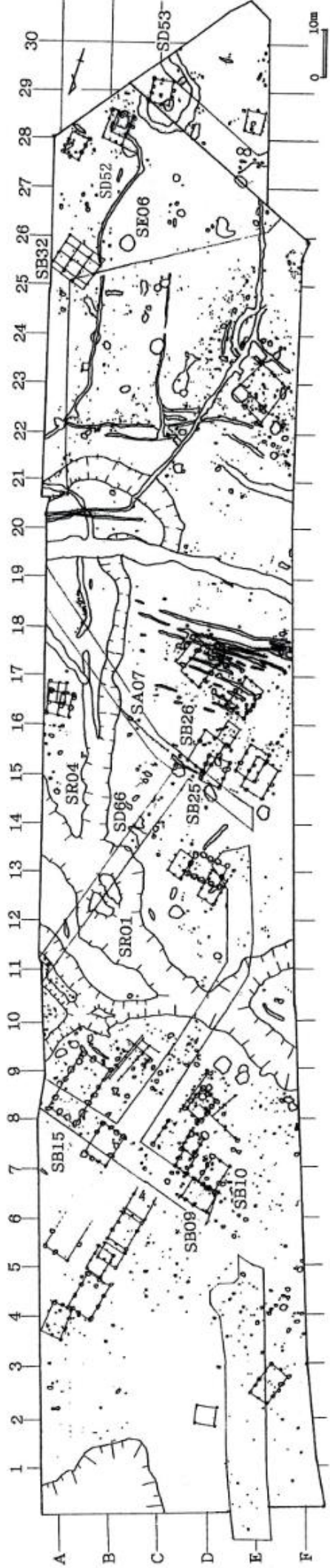
(田中勝之)



弥生時代の遺構面



調査区割図



中世と古代の遺構面